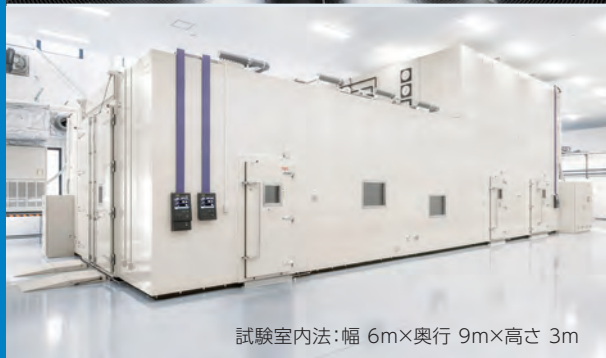
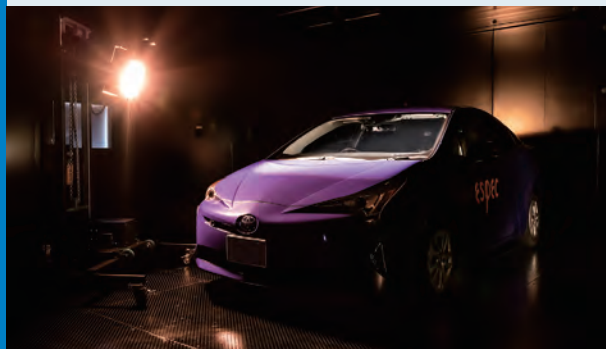


世界初「全天候型試験ラボ」をオープン 最先端技術分野の課題解決に貢献



当社は「世界の先端技術にとって不可欠な存在」に向けて、2021年3月「全天候型試験ラボ」を開設しました。今回の特集では、自動運転や5G、IoTなどの新技術開発に貢献する本ラボを紹介します。



試験室内法：幅 6m×奥行 9m×高さ 3m



代表取締役社長 石田雅昭
雪が降り積もった試験室にて

7つの環境因子で動的気象環境を再現

「全天候型試験ラボ」は、7つの環境因子（温度・湿度・雪・霧・雨・光・風）を高精度に制御・可変し、降雪や降雨、霧などの気象環境に温度や光を加えた複合的な気象環境や、みぞれから雪、雨から霧への変化など動的気象環境*を創り出すことができます。すでに多くのお客さまに見学いただいております。最適な装置や受託試験サービスの提案につなげています。また投資家や学生の方々など多方面から問い合わせをいただいております。

*動的気象環境：刻々と変化する気象環境のこと

先端技術では気象環境が敏感に影響

当社は全天候型試験ラボを通じて、自動運転や次世代通信（5G・6G）、ドローンなど最先端技術の課題解決に貢献することを目指しています。技術が高度化するほど気象環境が敏感に影響し、今まで当たり前と考えてきた気象環境が思わぬ障害の原因になります。先端技術分野の課題解決にはより正確な気象環境での評価が必要であり、ラボの果たす役割は大きいと考えています。当社の環境創造技術を駆使し、世界の技術革新や社会の発展に貢献してまいります。



雨量10~200mm/hを3段階で再現



雪の再現

湿った雪はセンサーに付着しやすく人や白線の識別力を低下させることがあります。本ラボは水分量の異なる雪を再現でき、自然環境に近い0℃前後での降雪も可能です。



霧の再現

濃い霧によりセンサーが十分に機能しないことがあります。本ラボは霧の濃さを制御でき、雨から霧への変化なども再現できます。



太陽光の再現

西日や薄暮、照度の変化、逆光などがセンサーの機能に影響を及ぼすことがあります。本ラボは夕方や晴天など異なる色の太陽光を再現でき、霧との組み合わせも可能です。

オープンイノベーションを推進

全天候型試験ラボにより、当社のコアコンピタンスである環境創造技術の強化や、新たな技術開発への取り組みを加速することも目指しています。当社は昨年5月に新しい技術開発棟が稼働しオープンイノベーションをさらに推進していますが、ラボをお客さまとの共同研究や産官学連携を推進する場として活用し、業界をリードする革新的な製品や技術を創出してもらいます。これにより環境創造技術の強化を図り、持続的な成長につなげてまいります。



神戸R&Dセンター（神戸市北区）

2001年操業の研究開発拠点。受託試験所や製造工場も設置。在来種を植樹し育てた森やビオトープ、屋上草地があり、生物多様性保全を推進する場としても活用しています。